

2025年度大学入試で求められる力と教科指導

新学習指導要領に対応した最初の大学入試となる2025年度入試。入試本番までおよそ1年前となる「3年生0学期」から求められる教科指導は、どのようなものなのか。大学入学共通テストの試作問題を踏まえ、現場の教師、そして進研模試編集長が考察した。

全体

新学習指導要領の趣旨が色濃く反映された試作問題

入試本番に向けた指導上の課題

2022年11月に大学入試センターが公表した25年度大学入学共通テストの試作問題は、これまでの問題作成方針の考え方である、「主体的・対話的で深い学び」を通して育成される深い理解を伴った知識の質や、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められるなど、新学習指導要領の趣旨を踏まえた問題となっていました（*）。

最も注目すべきは、科目構成が大きく

く変わった地理歴史・公民の全6科目と数学、新たに出題科目として設定された『情報Ⅰ』の試作問題が公表されたことでしょうか。それらは出題科目の全体の構成が分かる問題となっており、これからの指導計画にも大きく影響を与えるものと思われます。

また、『国語』では、複数の資料を、比較・関連づけたたり、多角的に評価したりすることを重視した大問が1つ追加され、『英語』では「リーディング」「リスニング」のそれぞれの問題で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られて

いることを踏まえた問題が示されました。いずれも新学習指導要領で求められている教科・科目の本質を重視した問題となっていました。

試作問題を見た現場の先生方は、どのような課題を感じているのでしょうか。弊社が行った調査（23年3月実施・799校が回答）では、教科・科目を問わず、読解力の育成の必要性を指摘する声が多く上がりました。問題文から問題を見いだす力や、複数の資料を比較・関連づける力などを合わせて読解力と捉えていると思われませんが、そのような力は、新学習指導要領の下、

多くの学校で育成が図られています。いよいよ25年度入試に向けて、3年生0学期以降の授業では、育成してきた各教科・科目の見方・考え方を、問題を通じて発揮していくことが求められます。

次ページからは、『国語』『歴史総合』『情報Ⅰ』について、現場の先生方に指導のポイントをお話ししていただいています。いずれの先生も、資質・能力ベースの指導へと転換を図り、知識や情報の活用を重視した授業展開を現しています。弊社の大学入学共通テスト模試のモデル問題と併せて、今後の指導の検討にお役立てください。



ベネッセコーポレーション
進研模試 編集長
三宅 悠介
みやけ ゆうすけ

* 進研模試編集部による、大学入学共通テストの試作問題の分析は、以下のURL https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20221111_mondaibunseki/index.html または、右の2次元コードからアクセスしてください。アクセスには、ベネッセハイスクールオンラインのIDとPWが必要です。





新たなタイプの文章を題材とする大問においても、求められるのは論理的思考力や情報活用能力

あくまで試作問題と捉え、問題の作成方針を踏まえた指導を

——大学入学共通テストの試作問題では、「実用的な文章」を題材とした問題が示されました。それを見て、どのような力が求められていると感じましたか。

田中 2問が示されましたが、両方も、文章だけでなく、図表やグラフなどが複数提示され、それらを的確に理解して解く問題であることから、情報活用能力が必要だと感じました。加えて、評論・小説・古文・漢文と同様に、全体を俯瞰する力や論理的思考力、批判的思考力も求められていました。

場面設定は2問ともレポートを作成する言語活動でしたが、問題の質が異なっていました。第A問は資料が複雑なことに加え、解答に不要な情報が多数含まれていました。必要な情報を抽出する分析的思考力が求められたと言えます。一方、第B問は生徒が比較的考えやすい帰納的な構成でした。

入試本番でどちらのタイプの問題が出されるかが気になると思いますが、

この2問はあくまでも試作問題であり、「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針と、問題として成立することを示したものと捉えています。入試本番では、5つの大問のバランスを考慮した問題の量や質になるはずですよ。

——試作問題にとらわれ過ぎず、問題の作成方針を踏まえた指導が大切になりますね。

田中 その通りだと思います。受験指導の観点では、試験時間が10分延びて90分となり、問題構成が大問4問から大問5問に変更されることへの対応が考えどころです。配点比率を基に各大問の時間配分を考えると、配点が20点の新たな大問は10分程度で解くことになりそうです。しかし、試作問題は提示資料が多く、10分で解けるものではありませんでした。従来の4つの大問の配点は各50点から各45点になり、小問が各1問減ると推測されます。小問4問分の時間を単純に新たな大問に充てられるというわけではありませんが、時間配分の想定は必要でしょう。

非連続型テキストでも力を発揮できるように、経験を積む

——「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針を踏まえると、どのような指導が求められると考えますか。

田中 「実用的な文章」を題材とする問題も、他分野と同様、全体を俯瞰する力や論理的思考力などが求められています。それらの力は日々の授業で育成していると思いますから、必要なのは、生徒自身が身につけた力を自覚し、試作問題のような場面設定の時にそれらの力が発揮できるように経験を積むことです。

「実用的な文章」は「評論」と似ている点もありますが、「評論」は筆者と主張が明確であるのに対し、「実用的な文章」は筆者が個人ではない場合も多く、主題とは無関係な情報も含まれます。その中から目的や条件に合った情報を抽出する力が求められます。そうした力をどんな形式の資料が出されても発揮できるように、様々な非連続型テキストを授業に取り入れるとよい



岡山県立岡山城東高校
田中誠一郎
たなか せいいちろう
同校に赴任して3年目。指導教諭。教務課長。国語科。

でしょう。それは、新たな大問に対する生徒の不安感の払拭にもつながります。

また、設問には、「アドバイスする」「題名を考える」などの場面設定がある場合があります。日々の授業において、グループワークで助言し合ったり、ポスターを製作したりと、様々な言語活動に取り組ませるとよいでしょう。

——そのような指導は、具体的にはどのようにすればよいでしょうか。

田中 教科書には、図表やグラフなどを題材とした言語活動例が掲載されています。それらの活用は、学年内で指導の方向性をそろえる上でも有効です。生徒に育みたい資質・能力に対してふさわしい題材を取り上げることが何より重要です。

非連続型テキストの読解は、地理歴史や理科、情報、総合的な探究の時間など、様々な教科で行っていると思います。教科横断的な学びを生徒に意識させることも、新たな大問への対応に結びつくはずです。

——3年生0学期以降の指導の計画に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

大問冒頭で示された【レポート】を俯瞰的に捉えることができているかを問う設問。【レポート】の内容や展開の特徴、不十分な点、よりよくするための改善点などを述べた意見について、ほかに示されたグラフや文章を踏まえて正誤を判断する。

問うている力

「何を伝えるためのレポートなのか」「現在のレポートはどのような内容・展開なのか」などを正確に捉える力や、それらを踏まえて、レポートの主張がより伝わりやすくなるためには何が必要かを考える力を問う。

問題作成の観点

複数の文章や資料を題材として、それらに関連づけて考察させたり、レポートなどを用いて、その内容や構成を検討・評価させたりする出題パターンを想定している。

三宅編集長解説

2025年度大学入学共通テストの国語で新設される、「実用的な文章」を題材とした大問3では、

文章や資料の「内容・展開を把握する力」や、「内容・展開を検討し、評価する力」などが求められます。3年生0学期以降、教科書や授業で扱った文章に関連する別の文章や、図表、グラフなどの資料を用いた演習を行い、多様な種類の文章や資料について、内容を正確に読み取り、適切に関連づける力を育成したいところです。

指導のポイント

- 新たなタイプの文章を題材とする大問でも、求められる力はこれまでと変わらない。
- 大問数の変更に伴う、時間配分などを想定しておく。
- 非連続型テキストの演習や試作問題にある場面設定で言語活動を行い、新たなタイプの文章でも力を発揮できるよう、経験を積ませる。

ついで教えてください。

田中 指導の流れはこれまでと大きく変わりません。3年次の秋までは言語活動を中心とし、大学入学共通テストの直前にマーク式問題の対策を行います。ただし、授業の内容は、コンピテンシー・ベースを意識していきます。

――授業を通じて、生徒にどのようなことを意識させていますか。

田中 私は生徒に、「理解は自分の言葉で、表現は相手が使う言葉で」と伝えていきます。入試で言えば、素材文にある言葉を適切に使って解答を記述するということです。相手の言葉に寄り添って表現した考えは、他者に伝わりやすいものになっているはず。そうした、日常の人間関係でも大切なことを生徒に育む授業を、これからも追求していきたいと思っています。

問4 ミズキさんの級友は、「レポート」の内容や展開について検討し、意見を交換した。「レポート」や【資料Ⅰ】～【資料Ⅴ】の内容を踏まえた意見として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つを選べ。解答番号は 4。

- ① Aさん…性別役割分業という社会的な問題について、「家事」という身近なテーマに関するアンケート結果を踏まえて論じているね。当事者意識を持って考えるべき問題だと改めて実感することができたよ。
- ② Bさん…「夫婦間で従業上の地位が異なっている」という主張については、根拠が十分でないと思う。各夫婦における従業上の地位の組合せとしてどのようなパターンが多いのか、実際に調査してみるのはどうだろう。
- ③ Cさん…家事分担の不均衡の原因を「妻の従業上の地位の違い」にだけ求めているのが気になったな。【資料Ⅱ】によると、妻が「常勤」の場合でさえ家事を均等に分担できてはいないのだから、別の原因も検討するべきだと思う。
- ④ Dさん…「性別役割分業の考え方が根強く存在している」という主張については、もう少し詳しい説明がほしい。たとえば、【資料Ⅳ】の一段落目と関連付けながら性別役割分業の考え方が形成された経緯を説明するのはどうか。
- ⑤ Eさん…性別役割分業について、「日本特有の課題」である可能性が示唆されているよ。この点について、海外の国々における調査結果と比較しながら論じると、もっと説得力のある内容になりそうだね。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

歴史総合

歴史的事象を様々な立場から捉え、 多面的・多角的に考察する力が求められる



愛知県立大府高校
野々山 新
ののやま しん
同校に赴任して2年目。進路指導部。地理歴史科。

知識は中学校レベル、 歴史を読み解く「概念」が必要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

野々山 『歴史総合』の試作問題は、大量の資料が提示され、それらを読解・比較した上で考察する問題でした。近現代の日本と世界が融合した『歴史総合』という科目の特徴を捉えた問題で、資料の作者の意図（国や立場の違い）を理解する、あるいは資料の作者以外の第三者の視点から批判的に捉えるなど、多面的・多角的な考察力がより求められていると感じました。

—— 歴史的事象を多面的・多角的に考察するとは、どういったことでしょうか。
野々山 アヘン戦争を例に資料を考察してみると、中国側はアヘン貿易の是非が論点となる一方、イギリス側は自由貿易の原則が論点となっていることに気づくことができます。その相違は戦争の要因の1つとなりました。つまり、複数の視点に立脚して特定の事象

を捉え直すということです。そのためには、資料の特性をつかむことや、当事国と第三国、政府と民衆といった国や立場の違い、現在とは異なる時代の文脈などに注目することが大切です。

—— 時代の文脈を捉えられるようになるためには、何が重要だと考えますか。

野々山 時代の特徴を形づくる「概念」の理解が何より重要です。産業革命であれば、工業化から近代化がどのように進んだのか、それが社会や人々にどんな影響を与えたのかなど、国を超えた共通点を理解することです。

概念を学ぶとは、眼鏡をかけることと似ていると思います。度数や偏光率によって見え方が変わりますし、本人の意思でかける眼鏡を自由に換えられます。同様に、歴史の概念を1度理解すれば、歴史の見え方が変わりますし、問題意識に応じて異なる概念を重視して考察することもできます。試作問題を見ても、必要な知識は中学校の歴史的分野レベルで、資料を通じていかに歴史的現象を概念的に捉えて考察できるかが求められています。

グループワークで、資料を 捉える多様な視点を学ぶ

—— 生徒が歴史の概念を理解することができるよう、『歴史総合』の授業ではどのような工夫をしましたか。

野々山 22年度は次のような授業を行いました。まずは生徒の実態をつかみ、生徒が疑問を抱くような単元を置く。いと、その問いを解くための各授業の問いを立てました。例えば1学期は、単元の問いを「工業化の進展は、私たちの生活を豊かにしたのではなかったのか」とし、各授業の問いは「イギリスの自由貿易は豊かさを与えたのか」「植民地支配に伴う工業化は豊かさと言えるのか」などとしました。そして、生徒が各授業の問いを教科書や資料集に載っている資料などを活用しながら解く中で、自分や社会が歴史どううつながっているのかを考えられるようにしました。なお、問いは本校の生徒が疑問を持ちそうなものにし、また、教科書に掲載されている問いも活用できるようにしています。

—— 『歴史総合』では教科書で扱う内容が増え、授業進度が厳しいといった声をよく聞きます。
野々山 確かに標準単位数の2単位では、教科書の内容を網羅して教えることは難しいでしょう。教科書を題材に概念を理解することを通して、社会的現象の歴史的な見方・考え方を学ぶという目標を明確にすれば、目標に沿って内容を精選することにつながります。その精選の考え方は、『世界史探究』や『日本史探究』でも同様です。

—— 3年生の学期以降の指導の計画について教えてください。

問いの考察にはグループで取り組ませました。他者がいることで、資料の解釈の仕方が多様になるからです。単元の学習で問いの解決に至らない場合は、どんな資料が必要かを考えさせました。そうした場面は、大学入学共通テストでも設問になっていました。

生徒からは、「歴史は、ただ学ぶだけでなく、学びを今や未来に生かす科目だと分かった」といった声が上がっており、手応えを感じています。

—— 『歴史総合』では教科書で扱う内容が増え、授業進度が厳しいといった声をよく聞きます。

野々山 確かに標準単位数の2単位では、教科書の内容を網羅して教えることは難しいでしょう。教科書を題材に概念を理解することを通して、社会的現象の歴史的な見方・考え方を学ぶという目標を明確にすれば、目標に沿って内容を精選することにつながります。その精選の考え方は、『世界史探究』や『日本史探究』でも同様です。

—— 3年生の学期以降の指導の計画について教えてください。

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築を目指したのか」という疑問に対する生徒の考察と、考察を導くために必要な資料を組み合わせる問題。

問うている力

資料の趣旨を把握し、条件との整合性を踏まえて必要な資料を取捨選択する力を問う。

問題作成の観点

複数の資料を基に疑問を考察・検証するような探究活動のプロセスを意識した出題パターンを想定している。

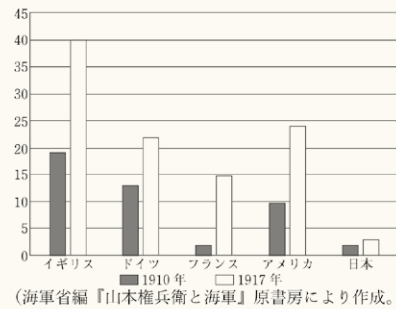
三宅編集長解説

『歴史総合』

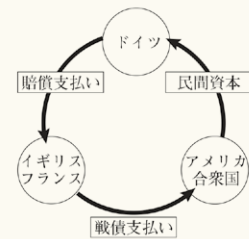
では、様々な資料を読み取る技能とともに、学習した知識と結びつけて具体と抽象を往還する力や、資料に基づいて疑問を考察・検証する力などが問われます。『歴史総合』の教科書にもたくさんの補足資料が掲載されていますが、そうした資料も活用しながら、「自由・制限」「平等・格差」など、様々な観点から多面的・多角的に考察することが重要です。

問3 下線部bに関連して、修太さんは「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築をめざしたのか」という疑問を持ち、次の資料4～6を集めて考察を行った。修太さんが作成した下の考察文X・Yと、その考察を導くために必要な資料の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

資料4 列強諸国の戦艦保有隻数



資料5 ドイツの戦後処理



資料6 平和に関する布告 (1917年11月8日)

著作権の都合により非掲載

考察文

X 極東地域における社会主義勢力の拡大に加え、中国における日本の勢力拡大にも警戒する必要があったから。

Y 自国の財政のためにヨーロッパの復興支援を行おうとする一方で、第一次世界大戦期からの軍事費の拡大が問題になっていたから。

- ① X－資料4と5 ② X－資料4と6 ③ X－資料5と6
- ④ Y－資料4と5 ⑤ Y－資料4と6 ⑥ Y－資料5と6

*大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 求められるのは、時代や社会の概念的な理解。それができていれば、細かな知識に依存せずに、歴史的事象を考察することができる。
- 資料を多面的・多角的に捉えられるようになるためには、グループワークが効果的。
- 探究科目に接続して、複数の資料を考察する学習を継続的に実施。

野々山 『世界史探究』の試作問題を見ると、習得すべき知識は『歴史総合』より大きく増えるものの、『歴史総合』と同様、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を問う問題が中心でした。2年生の『世界史探究』の授業は、基本的に『歴史総合』と同じ授業スタイルを採っています。『歴史総合』で学んだ概念を活用する問いを設けることで、『歴史総合』の復習も行っています。

—— 授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

野々山 『歴史総合』は、歴史教育を大きく転換させる科目です。現代的な諸課題を理解して社会に関心を持ち、多面的・多角的な考察力を身につけ、社会をよりよくすることにつながるような学びを、生徒に提供し続けていきたいと思っています。

情報 I

求められるのは、情報を活用する力。 情報を読み取り、考察する経験を重ねる



兵庫県私立雲雀丘学園中学校・高校
林 宏樹
はやし・ひろき
同校に赴任して2年目。2学年担任。
数学科、情報科 探究科。

知識の習得は最低限で、 活用力と読解力の育成が重要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

林 『情報I』の試作問題を見ると、知識の習得は最低限でよいけれども、教科書の内容を教えるだけでは不十分で、読解力や考察力の育成が必要だと感じました。2次元コードを題材にした問題がありましたが、2次元コードは教科書で扱われていません。情報技術は日々進化しているとともに、その活用領域は世の中で広がり続けていて、入試で扱われる題材を推測するのは不可能です。重要なのは情報技術の活用力と、問題文を正確に読解する力を育成することだと考えています。

—— 「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」のうち、課題に感じている分野はありますか。

林 得点の差がつく分野は、多くの生徒が高校から学び始める「プログラミング」「データの活用」でしょう。

「プログラミング」は多くの教師が指導に戸惑っている分野ですが、『情報I』で求められるのは、プログラムを一から作成する技能ではなく、プログラムを読解する力です。プログラムは3構造（順次・条件分岐・繰り返し）を理解し、順序立てて考える論理的思考力やフローチャートに表す構成力があれば、入試問題に十分対応できると考えています。

「データの活用」は数学の「データの分析」と混同されがちですが、試作問題の「データの活用」では、計算問題は出されていません。問われるのは、読み取った数値をどの場面でどう活用できるかを考える力です。例えば、相関係数が同じでも、散布図が異なれば分析結果が違ふといったことを理解し、データを読み取る力が挙げられます（図）。そうした力があれば、調査データをこのみにせず、数値の意味を考えられるようになるでしょう。

演習の中で試行錯誤をさせ、 問題への対応力を鍛える

—— 『情報I』の授業ではどのような工夫をしましたか。

林 私は、教科書の掲載順とは異なる順序で各分野を取り上げました。具体的には、1学期は「情報社会の問題解決」と「データの活用」を学習し、統計ポスター製作の演習を行いました。2学期は「プログラミング」「情報通信ネットワーク」、3学期は「コミュニケーションと情報デザイン」を学習し、1学期に製作した統計ポスターを、情報デザインの観点で再度製作させました。

—— 同じ演習内容にすることで、生徒に試行錯誤をさせたのですか。

林 どの演習においても、生徒が課題を実行した後に私がすぐに解説するのはなく、生徒自身が結果を考察し、改善点を考えて再び実行する試行錯誤を行う流れにしています。プログラミングでもデータの活用でも、問題発見と修正の繰り返しでよりよいものができます。生徒にもそれを経験させるこ

とで、考察力と活用力を鍛えています。演習は生徒同士で試行錯誤させ、私は極力かわらないようにしています。また、演習の解説では、間違えた生徒にどう考えたのかを聞き、なぜ間違えたのかについてやり取りします。正解した生徒も、その対話を聞くことで、疑念的に試行錯誤ができるからです。

—— 『情報I』を1年次に履修した学校が多いですが、今後の指導をどう進めようと考えていますか。

林 本校では、3年次に情報演習を行う科目を設置しています。それに向けて、2年次の後半は、毎週水曜日の朝学習の10分間に、薄い問題集に取り組みさせています。3年生0学期は、国語や数学、英語の基礎力の完成に向けた学習が重要な時期です。『情報I』の学習には負荷をかけずに、用語だけは思い出しおいてほしいと思い、10分間の学習に取り組みさせています。

3年次の情報演習では、プログラミングの演習を中心に行う予定です。最初に述べた通り、知識は最低限で、重要なのは試行錯誤の経験を通じて身に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

複数の散布図と相関係数から、データの関係性や傾向を読み取る問題。

問うている力

散布図を適切に読み取る力と、相関係数の意味を理解する力を問う。

問題作成の観点

データを活用して、問題を解決する場面や、データから課題や事象の傾向を導き出す場面を設定して出題することを想定している。箱ひげ図や散布図、回帰直線の知識を活用して何らかの結論を導き出す力を測定する。

三宅編集長解説

『情報Ⅰ』の試作問題の

概要には、「考察」という言葉が多く見られました。実際、試作問題は、知識の有無を直接問う問題ではなく、知識を使って考察させる問題が出されています。多くの学校では1年次に『情報Ⅰ』を履修済みですが、今後は、教科書に記載されている知識の習得と並行して、問題解決の場面を設定し、情報に関する知識を活用・実践する問題に接する機会をつくることが重要です。

問2 データシートを分析しやすい状態にした後、タロウさんとハナコさんは、各データ同士の関係性を見出そうとしている。以下の二人の会話文を読み、その後に続く問い(a・b)に答えなさい。

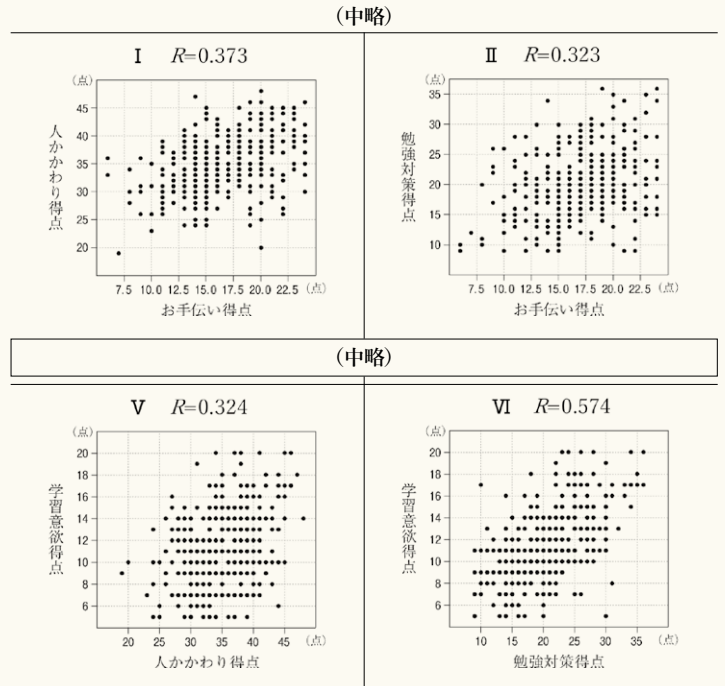


図1 各得点の散布図と相関係数(R)

b. 下線部について、図1から言えることとして正しいものを、以下の解答群の中から二つ選べ。

オ 力 (順不同)

- ① 「お手伝い得点」の最大値は、23である。
- ② IのRは、IIIのRの約2倍であるため、Iの相関の強さはIIIの約2倍である。
- ③ 「人かかわり得点」の平均値は、25である。
- ④ IIとVの相関の強さはほぼ同じである。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 大学入学共通テストの『情報Ⅰ』に向けての知識は、問題集で復習。
- 問題文を的確に読解し、与えられた情報を活用して問題を解く対応力を身につけさせる。
- 生徒同士で演習に取り組ませ、生徒に試行錯誤をさせて、読解力や考察力を鍛える。

つける活用力と読解力です。1年次に課した演習にも再度取り組ませて、試行錯誤をさせたいと考えています。また、問題文を読み飛ばす生徒が多いので、問題文に書かれている解答のヒントを読み取り、与えられた情報を活用する意識も持たせたいと思っています。

――授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

林 何事も間違えたり、うまくいかなかったりすることがあります。その時に大切なのは、諦めず、問題を見いだし、その解決策を考えて実行し、うまくいかなければ別の策を考えるなど、試行錯誤しながら目標に向けて走り続ける力です。たとえ目標に到達できなくても、試行錯誤が自分の成長につながる実感できるような授業を、これからも目指していきます。